

ISSN 2189-7689

Osakafu Rigaku Ryouhou Gakujutsu Taikai Gakkaishi

大阪府理学療法学会誌 / 大阪府理学療法士会生涯学習センター編
Vol.31

第 31 回 大阪府理学療法学会 2019

大会テーマ「生涯学習」－課題の明確化－

会 期：2019 年 7 月 21 日（日）

会 場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）

〒530-0005 大阪市北区中之島 5-3-51

主 催：一般社団法人 大阪府理学療法士会生涯学習センター
公益社団法人 大阪府理学療法士会

後 援：大阪府・大阪市

令和元年5月1日

病 院 長
施 設 長 殿
関係所属長

公益社団法人 大阪府理学療法士会
会 長 山 川 智 之
一般社団法人 大阪府理学療法士会 生涯学習センター
理事長 千 葉 一 雄



第31回大阪府理学療法学会出張許可について（お願い）

謹啓

向暑の候、貴施設におかれましては益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素より本会運営ならびに本会会員の理学療法士にご指導ご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび下記のとおり第31回大阪府理学療法学会を開催する運びとなりました。

つきましては、貴施設職員の理学療法士 _____ 氏の学会出張に格段のご配慮を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

謹白

記

1. 日 時 令和元年7月21日（日）
2. 場 所 大阪国際会議場（グランキューブ大阪）
（〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-51）
3. 内 容 学会大会テーマ「生涯学習－課題の明確化－」

以上

事務局：一般社団法人 大阪府理学療法士会生涯学習センター

〒540-0028

大阪市中央区常盤町1-4-12 常盤セントラルビル301号

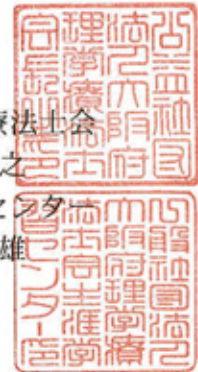
TEL：06-6942-7233 FAX：06-6942-7122

E-mail：gakkai@pt-osk.or.jp

令和元年5月1日

病 院 長
施 設 長 殿
関係所属長

公益社団法人 大阪府理学療法士会
会 長 山 川 智 之
一般社団法人 大阪府理学療法士会 生涯学習センター
理事長 千 葉 一 雄



出張許可について（お願い）

謹啓

向暑の候、貴施設におかれましては益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素より本会運営ならびに本会会員の理学療法士にご指導ご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび下記のとおり第31回大阪府理学療法学会、第1回生涯学習研修集会を開催する運びとなりました。

つきましては、貴施設職員の理学療法士 _____ 氏の研修集会、学会出張に格段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

〔第1回生涯学習研修集会〕

1. 日 時 令和元年7月20日（土）
2. 場 所 大阪国際会議場（グランキューブ大阪）
〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-51）

〔第31回大阪府理学療法学会〕

1. 日 時 令和元年7月21日（日）
2. 場 所 大阪国際会議場（グランキューブ大阪）
〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-51）
3. 内 容 学会大会テーマ「生涯学習－課題の明確化－」

以上

事務局：一般社団法人 大阪府理学療法士会生涯学習センター

〒540-0028

大阪市中央区常盤町1-4-12 常盤セントラルビル301号

TEL：06-6942-7233 FAX：06-6942-7122

E-mail：gakkai@pt-osk.or.jp

INDEX

大会長挨拶	2
参加者へのお知らせ	3
演者へのお知らせ	10
座長へのお知らせ	12
交通案内(アクセスマップ)	13
会場案内(フロアマップ)	14
企業展示・書籍販売のご案内	15
日 程 表	16
大会プログラム	19
抄 録	
教 育 講 演	34
特 別 講 演	36
ランチョンセミナー	42
卒業研究演題	48
査読者推薦演題	51
一般演題(口述発表)	57
一般演題(ポスター発表)	91
協賛企業一覧	104
運営組織・委員一覧	105

大会長挨拶

第31回大阪府理学療法学会大会

大会長 千葉 一雄

一般財団法人滋慶教育科学研究所

Concept

本大会は、これまで理学療法の医学的研究を行う事業ならびに新人理学療法士が日々研鑽し、治療を重ね、その成果を発表する登竜門としての役割を担ってまいりました。

今回の学会大会の構想としましては、演者の皆さまの研究が業績に反映するために演題の中から優秀であった演題に賛辞を称える複数の表彰を設けるなどの取り組みを行います。また、府士会組織がブロック制度から市区町村士会制度へと再編成されるに伴い、ブロック推薦演題を廃止しますが、新たに査読者推薦演題を設け、優秀な演題を論文投稿につなげられるよう学術誌を発刊し、将来的には学術団体として社会的にも認められる組織を目指します。

Theme

「生涯学習」—課題の明確化—

Overview

第31回学会大会は先達者の功労を引き継ぎつつ、新たなグランドデザインを掲げて「生涯学習」をテーマに「課題の明確化」、「キャリアラダーとゴール」、「人材育成としての実践」、「その成果」など連続性をもたせて生涯学習のあるべき姿を一貫して学べるよう企画を致しました。

今回は、メインテーマである「生涯学習 —課題の明確化—」に焦点を当て、各講師の方々の専門領域から臨床、組織運営、研究、教育、AI、人材育成など多方面からの切り口でご講演頂きます。教育講演と3本の特別講演を併せて聴講して頂くことで今回の大会の趣旨をご理解いただけると思っています。

特別講演には、大阪に縁の深い千住秀明氏（複十字病院）、吉尾雅春氏（千里リハビリテーション病院）らをお招きします。両氏は臨床を経て大学の教官に就かれ、臨床研究に専念されました。現在も臨床において専門領域を牽引する第一人者としてご活躍されています。お二人の豊富なマネジメントの経験から「臨床・研究・教育部門での人材育成における課題の明確化」をテーマにご講演頂きます。

また、若手リーダーからは、臨床の疑問を統計分析力や臨床研究力を活かしたベンチャー企業コンサルタントなど多彩な顔をお持ちである藤本修平氏（株式会社豊通オールライフ・京都大学大学院医学研究科 プロジェクト研究員）に「課題の明確化 —AI時代に求められる“決める力”と“真”の力の研究力—」をテーマにご講演を頂きます。

一般演題も口述とポスターを数多く募集し、前回に引き続き学生の演題発表も企画しておりますので、会員、養成校の教員ならびに学生の皆さまからの活発なご議論を期待しています。

生涯学習センターと府士会の共同開催として多くの皆さまのニーズに応え、記念すべき大会を目指して準備をしております。是非、研修集会ならびに学会大会にご参加いただき、「臨床技能」と「理学療法学」を高めるための第一歩を共に踏み出しましょう。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

参加者へのお知らせ

- 本大会は、会員証(右図参照)による会員証明・参加受付・ポイント管理を導入しております。当日は忘れずにお持ちください。
- ※楽天カードではありません。
- 事前申込の方は、大会当日会員証をカードリーダーにかざして受付完了となります。
- 第31回大阪府理学療法学会の参加は有料となります。



参加費

参加登録

参加対象	当 日	事前申込	
		研修集会・学会大会同時申込	学会大会のみ
大阪府理学療法士会員	3,000円	2,000円	2,500円
日本理学療法士協会会員	3,000円	2,000円	2,500円
他職種会員(医療・福祉関係会員)	3,000円	不 可	不 可
会員外	8,000円	不 可	不 可
学生(大学院生を除く)	無 料	不 可	不 可

- 筆頭演者に該当する理学療法士協会会員は、事前参加登録をしてください。
事前登録は定員に達した場合には早期に締め切る可能性がございます。参加をご予定の方は早めにお申し込みください。申込状況によっては当日参加受付を実施しない場合がございます。あらかじめご了承ください。
- 事前申込は、大阪府理学療法士会員・日本理学療法士協会会員のみとなります。
- 事前申込完了後は、いかなる理由があろうともキャンセルはお受けできません。
- 当日申込は、現金支払いのみの取り扱いとなります。
- 日本理学療法士協会会員・他職種会員・学生の方は当日会員証・学生証を提示してください。
- 下記の①～⑥に該当する方は、学会当日の受付会場に用意しています「学会大会参加申込書」にご記入のうえ、参加受付を行ってください。
 - ①本年度新入会で学会当日に会員証が手元に届いていない日本理学療法士協会会員
 - ②学会当日に会員証をお忘れの日本理学療法士協会会員
 - ③(公社)日本理学療法士協会に入会されていない理学療法士
 - ④他職種の方
 - ⑤学生の方
 - ⑥同伴のお子様

学術大会参加申込書

第31回大阪府理学療法学会学術大会参加申込書								
NO	会員番号	氏名	所属	理学療法士区分		会員外		
				大阪府会員 (○印を記載)	他府県士会会員 (士会名を記載)	PT (○印を記載)	学生 (○印を記載)	他職種(職種名を記載) お字様同様の場合はお字様氏名 を記載
例	1000000	大阪 太郎	大阪学会病院リハビリテーション科	大阪府会員	京華府士会	PT	学生	看護師
1				大阪府会員		PT	学生	
2				大阪府会員		PT	学生	
3				大阪府会員		PT	学生	

事前申込方法

- ・インターネットでのオンライン登録になります。事前参加登録よりお申込みください。
- ・事前申込には、E-mail アドレスの登録が必要です。
- ・オンライン事前申込完了後、日本理学療法士協会よりご登録 E-mail アドレスへ受付完了のメールが送信されます(送信には手続き上時間を要する場合がございます)。このメールは、参加登録の事前申込みを証明するものとなりますので、当日まで大切に保管してください。
- ・支払い方法は日本理学療法士協会指定クレジットカード払い・口座振替のみとなります。
- ・協会指定クレジットカードは楽天カードです。その他のカードは使用できません。楽天カードは、協会ホームページよりお申し込みください。
- ・決済状況はマイページよりご確認ください。

事前申込に関するお問い合わせはこちら

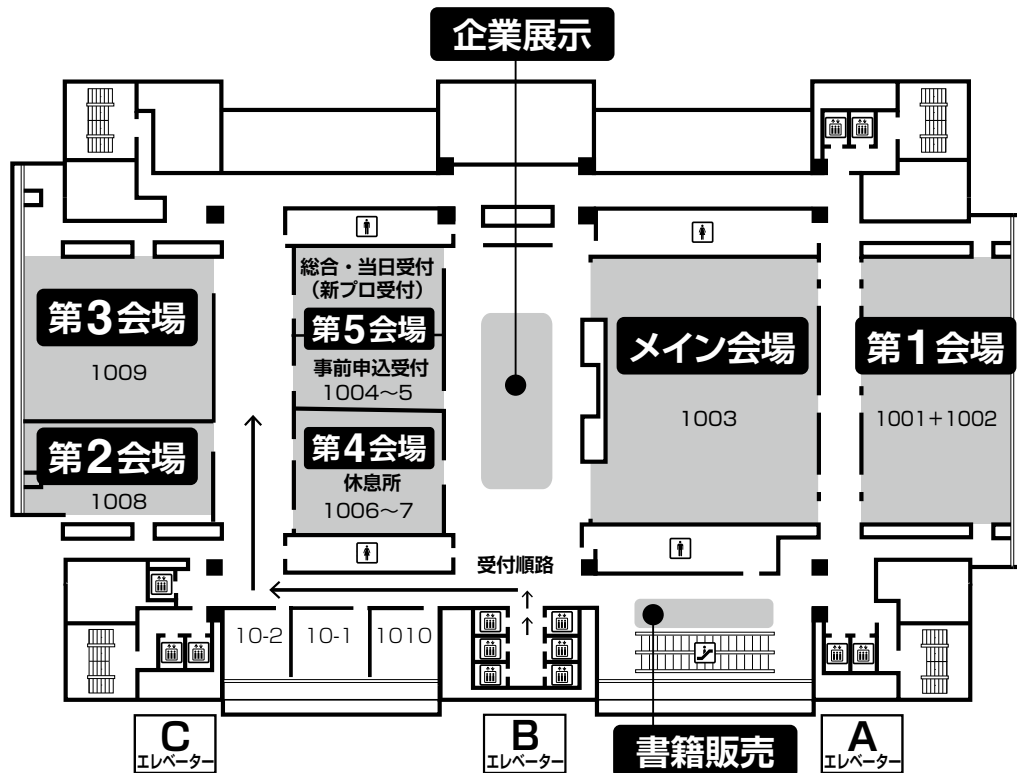
一般社団法人 大阪府理学療法士会生涯学習センター E-mail : gakkai@pt-osk.or.jp

事前申込締切り(大阪府理学療法士会員・日本理学療法士協会会員のみ)

支払方法	申し込み期限
日本理学療法士協会指定 楽天カード	7月10日
口座振替	6月15日

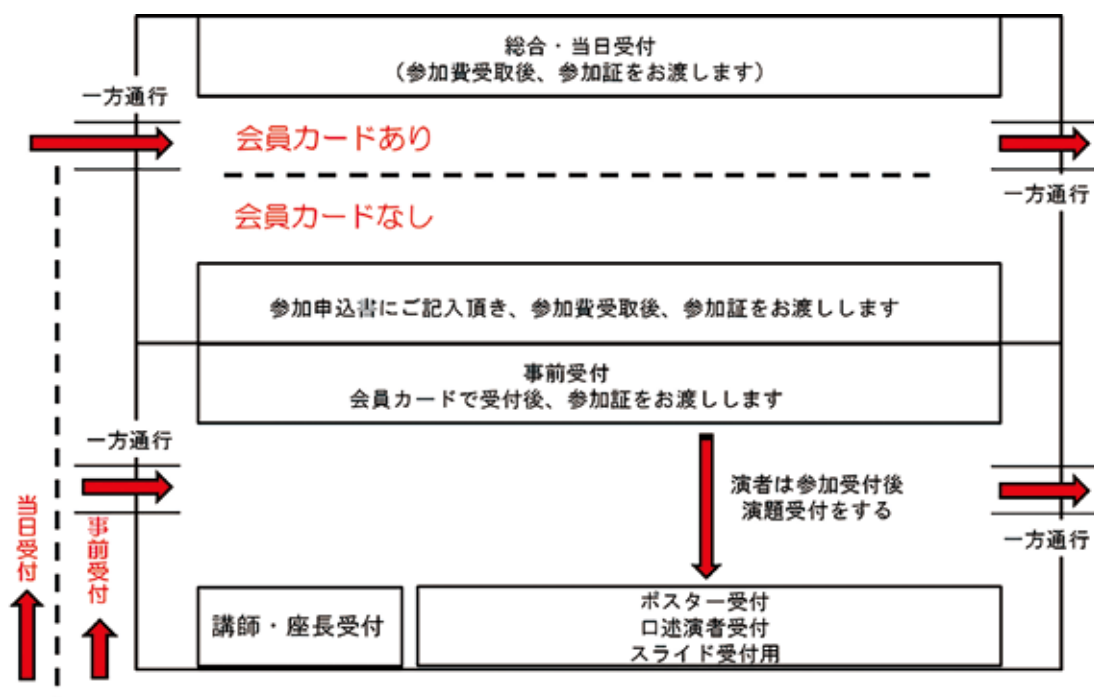
参加受付について

施設	受付場所	時間
大阪国際会議場	10F 第5会場(1006-7)	8:00～



- ・事前申込みされた方は「事前申込受付」にて受付後、参加登録費受領証を兼ねたネームカードをお渡しします。
- ・当日参加受付の方は「当日参加専用受付」にて、参加費の支払後、参加登録費受領証を兼ねたネームカードをお渡しします。
- ・参加登録費受領証は再発行出来ません。大切に保管してください。
- ・受付終了時間は16:00とさせていただきます。

第5会場受付概略図 10F



生涯学習ポイント

- 受付で会員証をかざすことにより、ポイントが自動管理されます。マイページへの反映は大会終了後2ヶ月となります。
- 講師・座長・査読者
本学会でご講演等をご担当いただく講師・座長・査読者は、各加算ポイントを大会側で登録させていただきます。なおマイページへの反映は大会終了後2カ月後となります。

新人教育プログラム単位認定

- 本学術大会では下記教育セミナーへの参加で新人教育プログラムの単位が認定されます。認定専用受付を第5会場に設置しております。
- 発表者が新人教育プログラム履修中の場合は、C-6症例発表(3単位)、同プログラムを終了している場合は生涯学習の発表加算のポイント認定を行います。
- 各講演の入場時に新人教育プログラム受講票を配布します。講演終了後に、各会場の前方・後方に回収箱を設置していますので、受講票に会員番号と氏名を記載の上、投函をしてください。
- 受講票を配布されなかった方は、受講票回収箱の横に講演に対する当該単位の受講票を設置していますので、その受講票に会員番号と氏名を記載の上、投函をしてください。
- 回収箱は一つの講演が終了し、次の講演の開始時に撤収します。撤収後に投函することは如何なる理由があろうとも受理いたしませんので、予めご了承くださいますようお願いいたします。
- 新人教育プログラム履修には1単位60分以上の受講時間が必要となりますので、途中入場・退室の方の履修受付は出来かねます。予めご了承ください程、よろしくお願いいたします。

○教育講演：C-2(8:30～9:30)

講師：浅野 昭裕

○特別講演1：C-3(9:50～10:50)

講師：千住 秀明

○ランチョンセミナー：C-1(12:00～13:00)

講師：①岡崎 伸 ②増田 知子 ③中山 昇平

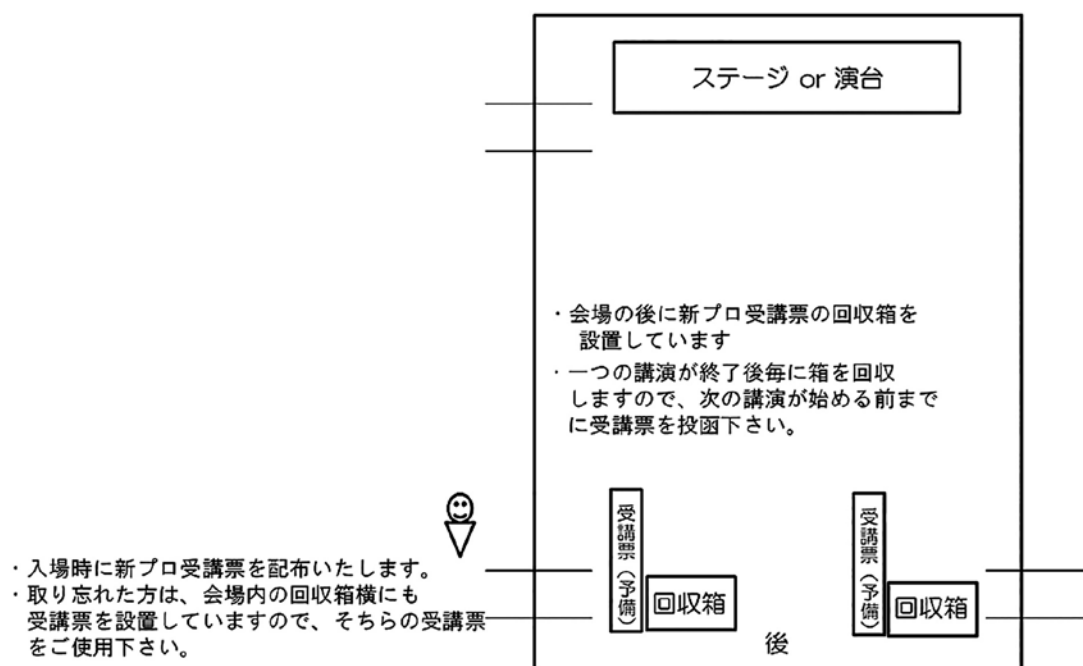
○特別講演2：C-7(14:35～15:35)

講師：藤本 修平

○特別講演3：C-4(15:50～16:50)

講師：吉尾 雅春

新人教育プログラム研修会受講票配布と回収について



ポイント認定

- ・学術大会参加：10ポイント 会員証または参加申込書で受付された日本理学療法士協会会員（新人プログラム履修者は除く）を対象としています。参加受付をされますとポイントが自動的に付与されますが、マイページへの反映は大会終了後となります。
- ・新人教育プログラム単位履修について新人教育プログラム履修中で、下記講演の受講者を対象に新人教育プログラム単位認定を行います。各講演の受講証明として参加申込み用紙を配布いたしますので、必要事項をご記入いただき、登録申請を行ってください。マイページへの反映は大会終了後となります。
- ・会員証をお持ちの方は、会員証にて参加登録を行います。受講証明として配布する参加申込み用紙を必ずご持参ください。会員証をお持ちでない方は、配布する参加申込み用紙において参加登録を行います。

セミナー番号(講義順): ① ② ③ ④				参加日:		令和元年7月21日	
当日参加申込み用紙							
会員番号		フリガナ 氏名		性別	男性 ・ 女性		
				生年月日	西暦	年	月 日
勤務先	病院・施設名:						
* 自宅会員は 施設欄に自宅と ご記入ください。	所属・部署:						
	住所: 〒						
	TEL:						
連絡先	TEL:						

- ・学会発表者 発表者が新人教育プログラム履修中の場合はC-6症例発表(3単位)、同プログラムを終了している場合は生涯学習の発表加算のポイント認定を行います。なお、登録は本大会側にいたしますが、マイページへの反映は大会終了後となります。
- ・講師・シンポジスト・司会者・座長・査読者 本学会でご講演等をご担当いただく講師・シンポジスト・司会者・座長・査読者は、各加算ポイントを本大会側で登録させていただきます。なお、マイページへの反映は大会終了後となります。

優秀演題・卒業研究演題優秀賞

本大会では査読者推薦演題を対象に「優秀演題賞」、卒業研究演題を対象に「卒業研究優秀演題賞」を設けています。「優秀演題賞」は学術大会終了後に厳正なる審査を行い、翌年に表彰をさせていただきます。「卒業研究優秀演題賞」については、閉会式にて表彰を行います。皆様、是非ご参加ください。

ランチョンセミナーについて

- 本大会ではランチョンセミナーを開催いたします。
- 整理券（お弁当引換券）の配布は8:00より行いますので（下図参照）、参加受付を行ったうえでお越しください（ネームカードをお持ちでない方には配布いたしません）。
- 配布枚数はお一人様1枚とさせていただきます。整理券がなくなり次第、配布を終了いたします。
- 整理券をお持ちでない方も聴講は可能ですが、座席は整理券をお持ちの方が優先されますので、ご了承ください。



託児施設について

- 託児施設はございません。

ご参加上の注意

- ・会場内での写真撮影・録画・録音はご遠慮ください。
- ・主催者による記録・広報等のため、写真撮影・録画・録音・オンライン配信等を行う場合がございますので、予めご了承ください。
- ・会場内では携帯電話など音の出る機器は必ず電源を切るかマナーモードでご使用ください。プログラム中の通話は禁止させていただきます。
- ・会場内は、主催者が定めた場所以外は飲食禁止となっております。
- ・会場内にて発生した盗難、ならびにご本人または第三者の不注意等による事故、その他の物的および人的事故等については、理由の如何を問わず、主催者は一切の責を負いません。
- ・会場内にて、イベントに支障をきたす行為、他の参加者に迷惑をかけるような行為、または違法行為と主催者が判断した場合は、イベントへのご参加をお断りする場合がございますので、予めご了承ください。
- ・大会内容に変更になる場合もございますので、予めご了承ください。

中止について

- ・出演者の都合またはやむを得ぬ事由により、講演を中止する場合がございますので、予めご了承ください。
- ・交通機関のストライキ、天変地異などやむを得ない事情で中止する場合がございますので、予めご了承ください。
- ・中止の場合、交通費などの補償はいたしかねますので、予めご了承ください。
- ・中止の情報について、研修集会・学術大会ホームページのトップページ <http://o-pt3l.umin.jp/> の新着情報に掲載いたします。

その他

- ・各会場への入場の際には、必ずネームカードの入ったホルダーを首から下げ、確認できるようにしてください。
- ・ネームカードの確認できない方は会場への入場をお断りします。
- ・会場内での呼び出しはできません。
- ・緊急・非常時に備えて必ず各自で非常口の確認をお願いします。
- ・会場内は全室禁煙となっております。
- ・ゴミは各自でお持ち帰りください。
- ・クロークはございません。
- ・当会場には Free-wifi があります。携帯やモバイル PC 等での情報の発信・取得に御使用ください。
Free-OICC
PASSWORD : grandcube

アンケートについて

参加者の皆様からのフィードバックをもとに、今後もイベントの運営と内容を改善してまいりたいと考えております。つきましては、下記の QR コードかアドレスより簡単なアンケートにご記入のうえ、ご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします（回答は匿名で集計されます）。

URL : <https://forms.gle/tW7xomTvS5Bww9C26>



QR コード

- 演者は、事前受付会場（10階 第5会場）で参加受付終了後、スライド受付をしてください。下記のご自身のスライド受付時間内に発表データを発表用コンピュータに保存してください（これはスタッフが行います）。
- 当日の進行をスムーズにするために、事前にファイルタイトルに演題番号・受付番号・氏名（例：O-3- 受付番号_氏名）を記載し、当日スライド受付を行ってください。
- スライド受付時間については、演題番号により受付時間が異なりますので、下記をご確認の上、受付時間内に受付を済ませてください（時間厳守でお願いします）。その際、スライド受付にて試写をお願いいたします。メディアのお預かりはいたしません。なお、受付時のスライドの修正は固くお断りします。ご理解、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

セッション名	演題番号	スライド受付時間
査読者推薦演題①	O-1 ～ O-5	スライド受付時間 8:30～9:30
基礎等	O-11～O-16	
神経①	O-17～O-22	
神経②	O-23～O-28	
神経③・運動器①等	O-29～O-33	
運動器②	O-34～O-39	
査読者推薦演題②	O-6 ～ O-10	スライド受付時間 9:30～10:30
運動器③	O-40～O-44	
運動器④	O-45～O-49	
運動器⑤	O-50～O-54	
内部障害①	O-55～O-59	
内部障害②	O-60～O-64	
運動器⑥等	O-65～O-68	スライド受付時間 10:30～11:30
教育管理・生活支援等	O-69～O-72	

- 演者は、当該セッション開始10分前までに「次演者席」に着席してください。
- 演者や所属に変更がある場合には、演者受付に申し出てください。
- 発表時間は7分以内、質疑応答は3分以内で時間設定しています。スライド操作は発表者自身で行ってください。
- 発表の内容は抄録と相違のないようにお願いします。
- 発表終了1分前に緑色のランプで合図し、終了時に赤色のランプで合図致します。赤色ランプの合図で速やかに発表を終了してください。

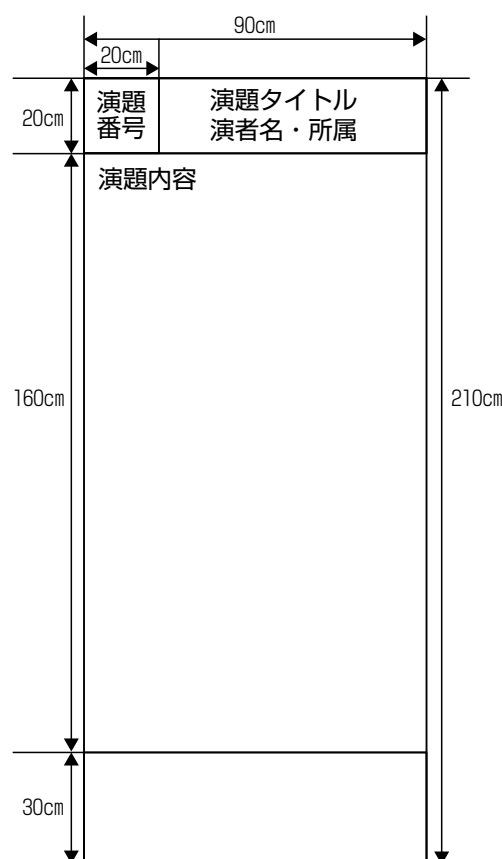
- 発表は Windows コンピュータを使用し、Macintosh はご使用になれません。コンピュータは大会側にて準備致します。大会側で使用する OS は Windows10、プレゼンテーションソフトは Microsoft PowerPoint 2010です。アニメーション、動画は使用できません。静止画は JPEG 形式を使用してください。データは CD-ROM (※ CD-RW 不可)、USB メモリのいずれかのメディア (記憶媒体) でお持ちください。他のメディアはご利用できません。発表用コンピュータに保存したデータは発表後に消去します。

質疑応答について

質疑応答では、座長の指示に従って活発なご討議をお願いします。なお、質問をする場合には必ず所属と名前を告げ、簡潔明瞭に行ってください。

ポスター発表

- 演者は、総合受付 (10階 第5会場) 終了後、ポスター受付にて受付を済ませ、ポスターを所定の場所に貼付してください。
- ポスター掲示には、ポスターパネルと画鋏を用意致します。
- 掲示はパネルの横 90cm × 縦 160cm の範囲とします。
- パネル左上に演題番号を大会側で用意致します。その右側に縦 20cm × 横 70cm のサイズで、演題タイトル・演者名・所属を表記してください。
- 下から 30cm は見えにくいいため、使用しないことをおすすめします。
- ポスター撤収は 15:30～16:00 に行ってください。
- 該当セッション開始の 10 分前までに、ポスターの前にお越しください。不測の事態で発表時間に間に合わない場合は、速やかに演者受付までご連絡ください。万一、ご連絡のないまま時間までに来られない場合は、発表を放棄したものと判断しますのでご了承ください。
- 発表時間は 5 分以内、質疑応答は 5 分以内としますが、発表終了後も該当セッションが終わるまではポスター前で待機してください。
- 演者や所属などに変更がある場合は、受付の際にお申し出ください。



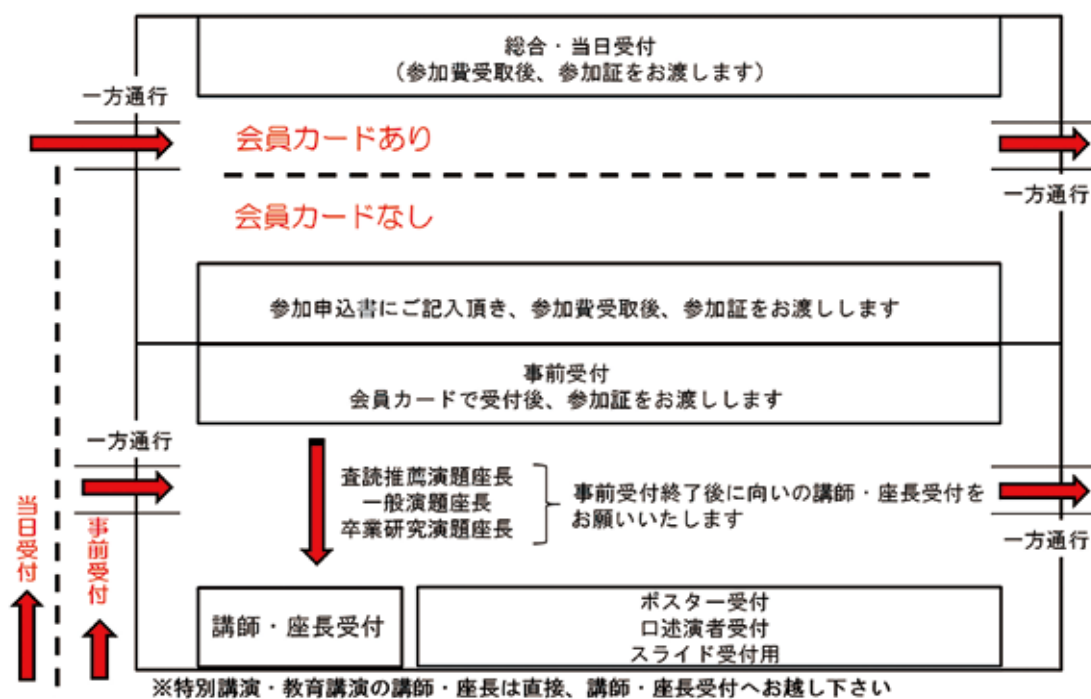
質疑応答について

質疑応答では、座長の指示に従って活発なご討議をお願いします。なお、質問をする場合には必ず所属と名前を告げ、簡潔明瞭に行ってください。

座長へのお知らせ

- 座長は担当セッション開始時刻の30分前までに事前受付会場（10階 第5会場）の座長受付にて登録を済ませてください。
- 口述発表ご担当の座長は開始10分前までに「次座長席」にご着席ください。
- ポスター発表ご担当の座長は開始10分前までに12階ポスター会場にお越しの上、係員にお声掛けください。
- 担当セッションの座長は2名体制となっております。セッションの進行に関してはすべて座長に一任致します。必ず予定時間以内に終了していただくようお願いします。なお、質疑応答はできる限り一演題ずつに対して進行していただきますようお願いいたします。
- 不測の事態にて、座長の職務が遂行不可能であると判断された場合は、速やかに座長受付までご連絡ください。
- 発表の内容が抄録と大幅に異なる場合は、その場で厳重な注意を行っていただくとともに、建設的・指導的にセッションを進行していただきますようお願いいたします。

第5会場受付概略図 10F



交通案内(アクセスマップ)

大阪国際会議場
(グランキューブ大阪)

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号
TEL: 06-4803-5555(代表) FAX: 06-4803-5620

■ 空港・新幹線より



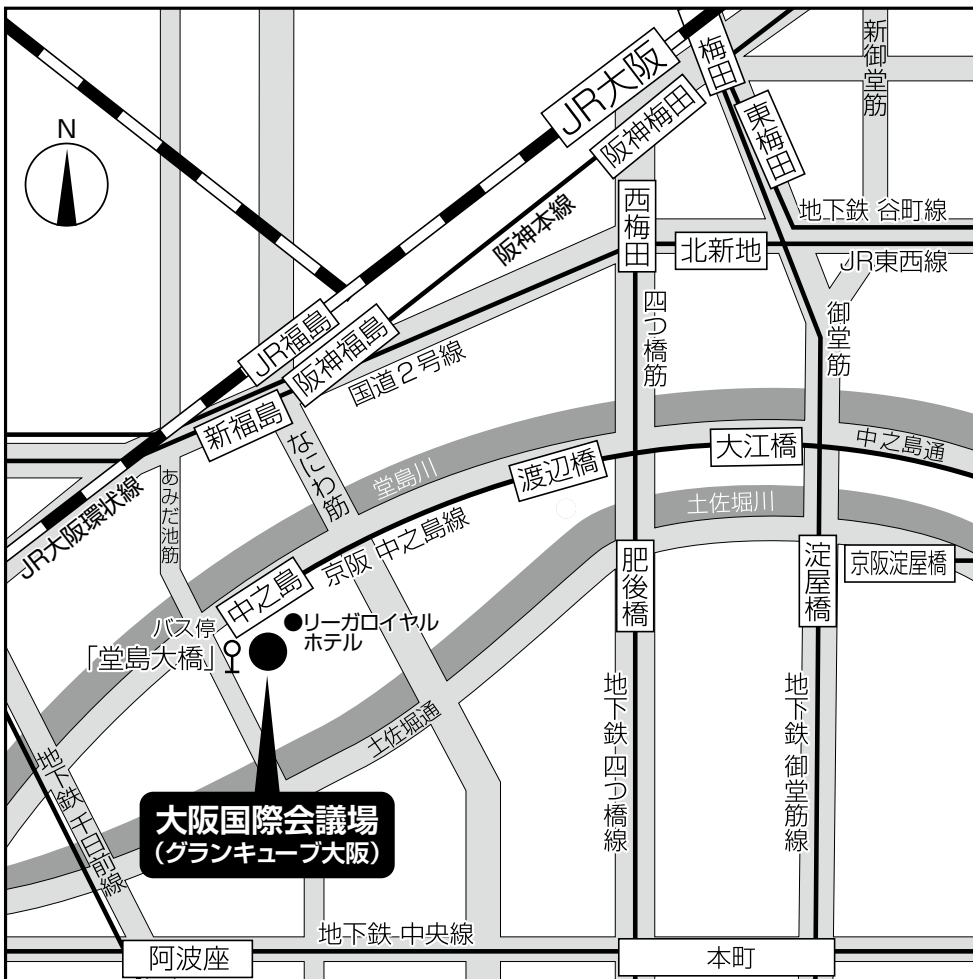
電車

- 京阪電車中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」
(2番出口)すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約15分
- JR東西線「新福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 大阪メトロ「阿波座駅」(中央線1号出口・
千日前線9号出口)から徒歩約15分

バス

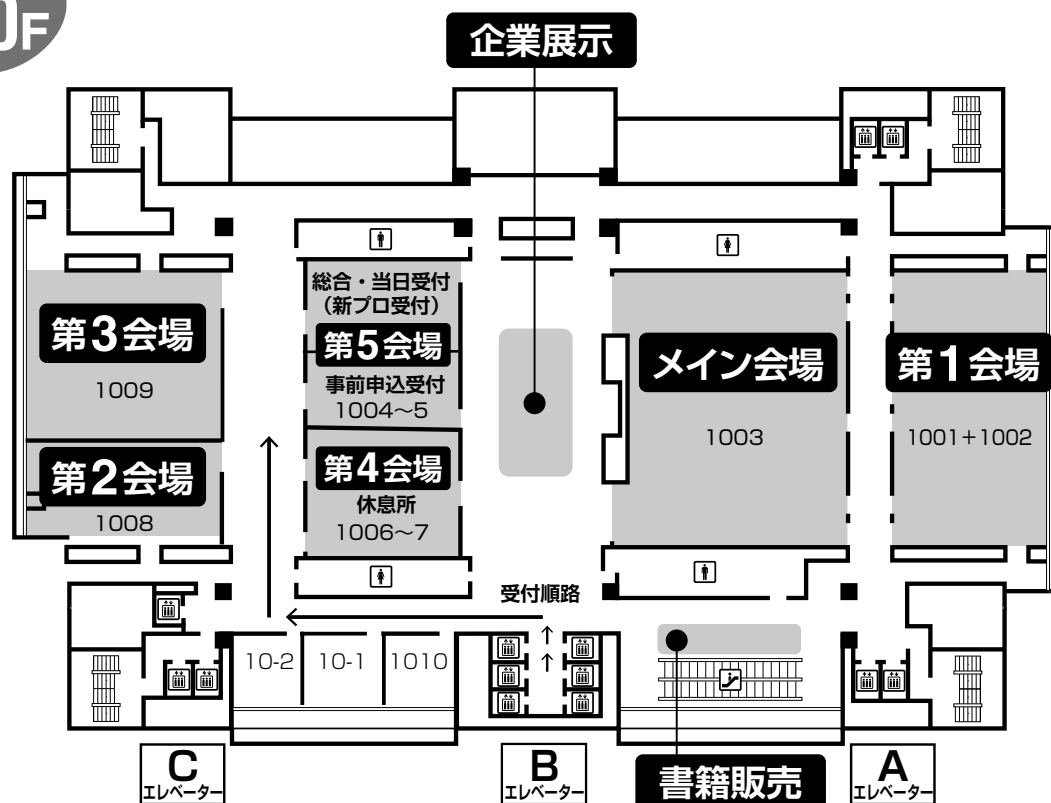
- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、
大阪シティバス(53系統 船津橋行)
または(55系統 鶴町四丁目行)で約15分、
「堂島大橋」バス停下車すぐ

■ 周辺アクセス

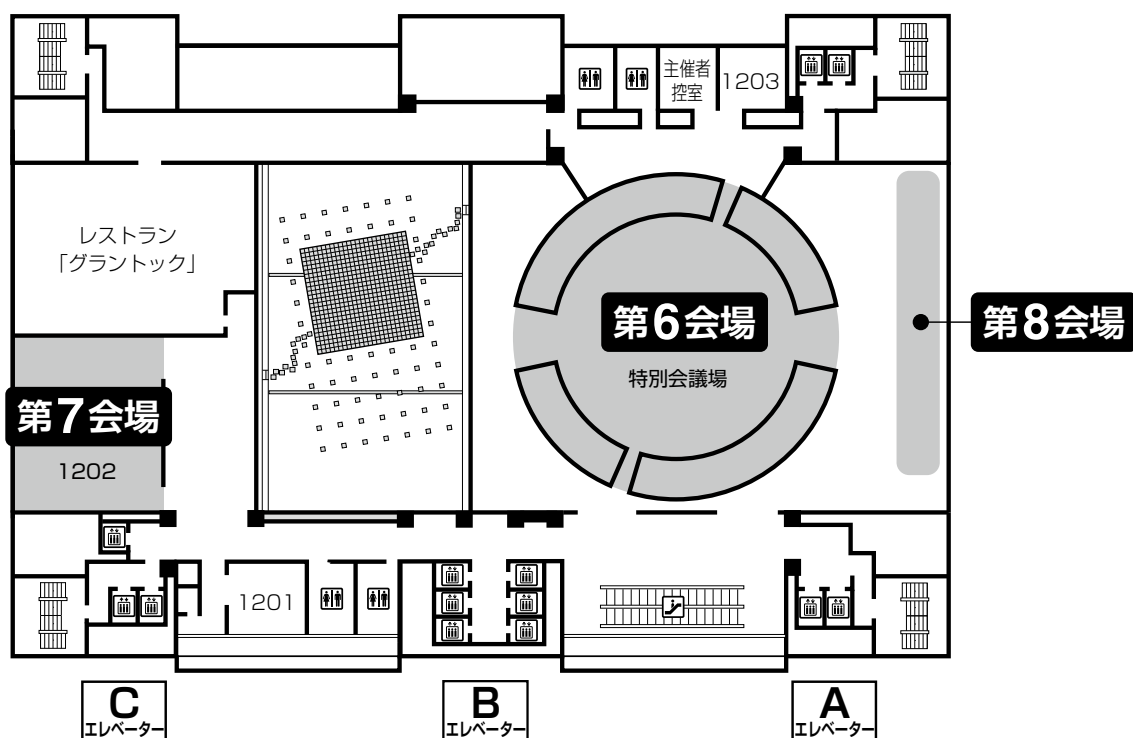


会場案内(フロアマップ)

10F



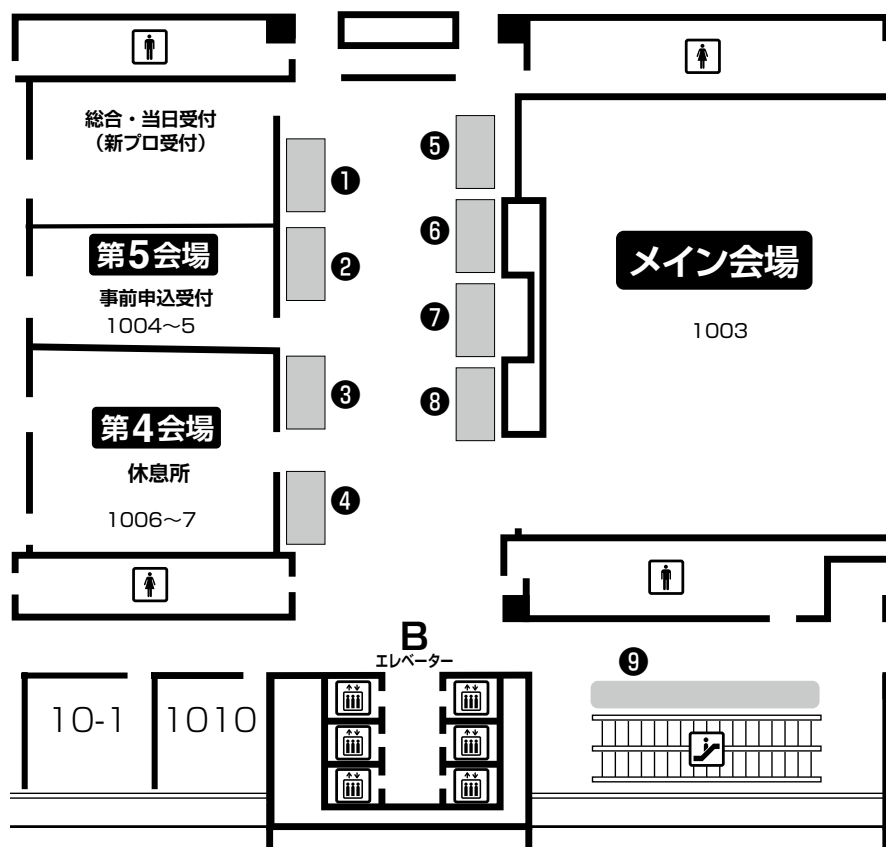
12F



企業展示・書籍販売のご案内

企業展示を10階ホワイエで、書籍販売を10階エスカレーター前ロビーで行います(9:00~16:00)。会場では最新リハビリテーション関連機器の展示、ならびに多くの書籍を販売しておりますので、ぜひお立ち寄りください。また、第4会場を休憩室として設けており、ドリンクサービス(無料)を準備しています。休憩、情報交換など、ご自由にお使いください。

企業展示・書籍販売配置図 10階



企業展示・書籍販売一覧

- ① 川村義肢株式会社
- ② 酒井医療株式会社
- ③ バイオジェン・ジャパン株式会社
- ④ WHILL 株式会社
- ⑤ ミナト医科学株式会社
- ⑥ オージー技研株式会社
- ⑦ 株式会社三笑堂
- ⑧ 株式会社プロアシスト
- ⑨ 株式会社神陵文庫

日 程 表

2019年7月21日(日)

10 階				
メイン会場		第1会場	第2会場	第3会場
1003		1001-2	1008	1009
8:00				
9:00	新人教育プログラム：C-2 8:30～9:30 教育講演（運動器系） 課題の明確化－運動器理 学療法のための画像評価 講師：浅野 昭裕 座長：中川 法一	教育講演 （運動器系） Live 中継		
	9:35～ 開 会 式	開 会 式 Live中継		
10:00	新人教育プログラム：C-3 9:50～10:50 特別講演 1（内部障害系） 臨床・教育・研究における 人財育成の課題の明確化 講師：千住 秀明 座長：千葉 一雄	特別講演 1 （内部障害系） Live 中継		
11:00	10:55～11:55 口述発表 査読者推薦演題① （O-1～O-5） 座長：長倉 裕二 松田 淳子	10:55～11:55 口述発表 基礎等 （O-11～O-16） 座長：松木 明好 木内 隆裕	10:55～11:55 口述発表 神経① （O-17～O-22） 座長：森 公彦 鈴木 規子	10:55～11:55 口述発表 神経② （O-23～O-28） 座長：藤田 暢一 宮下 創
12:00		新人教育プログラム：C-1 12:00～13:00 ランチョンセミナー ① 協賛：バイオジェン・ジャパン株式会社 ここまできた脊髄性筋萎縮症 （SMA）の診断と治療 ～早期発見 ・早期治療とリハビリテーションの重要性～ 講師：岡崎 伸 座長：尾谷 寛隆	新人教育プログラム：C-1 12:00～13:00 ランチョンセミナー ② 協賛：川村義肢株式会社 脳卒中者の歩行における 下肢装具の活用と今後 の展望 講師：増田 知子 座長：羽田 晋也	新人教育プログラム：C-1 12:00～13:00 ランチョンセミナー ③ 協賛：酒井医療株式会社 運動器エコー＋タブレット PCの革新的活用 静と動の評価 講師：中山 昇平 座長：南部 正英
13:00				
14:00	13:30～14:30 口述発表 査読者推薦演題② （O-6～O-10） 座長：青木 修 武田 要	13:30～14:30 口述発表 運動器③ （O-40～O-44） 座長：高尾 耕平 加藤 良一	13:30～14:30 口述発表 運動器④ （O-45～O-49） 座長：三浦 なみ香 田中 貴広	13:30～14:30 口述発表 運動器⑤ （O-50～O-54） 座長：能登 洋平 加島 知明
15:00	新人教育プログラム：C-7 14:35～15:35 特別講演 2（社会貢献） 課題の明確化－AI時代に求め られる“決める力”と“真の研究力” 講師：藤本 修平 座長：森 憲一	特別講演 2 （社会貢献） Live 中継	14:35～15:35 口述発表 運動器⑥等 （O-65～O-68） 座長：田中 暢一 西田 大希	14:35～15:35 口述発表 教育管理・生活支援等 （O-69～O-72） 座長：安井 学 前田 孝治
16:00	15:40～ 次期大会長 挨拶			
	新人教育プログラム：C-4 15:50～16:50 特別講演 3（神経系） 臨床・教育・研究における 人財育成の課題の明確化 講師：吉尾 雅春 座長：鈴木 俊明	特別講演 3 （神経系） Live 中継		
17:00	17:00～ 卒業研究演題表彰 17:05～ 閉 会 式			

10 階			12 階		
第4会場 1004-5	第5会場 1006-7	企業展示 ホワイエ	第6会場 特別会議場	第7会場 1202	第8会場 ホワイエ
8:00	8:00~ 受付開始				
9:00	8:30 ┆ 16:00				9:00~9:30 ポスター掲示
10:00	休 憩 所	9:00 ┆ 16:00			9:50~10:50 ポスター公開
11:00	受 付	企 業 展 示	10:55~11:55 口述発表 神経③・運動器①等 (O-29~O-33) 座長：池澤 秀起 藤井 隆文	10:55~11:55 口述発表 運動器② (O-34~O-39) 座長：岩村 真樹 磯田 真理	10:55~11:55 ポスター発表 神経・内部障害 運動器等 (P-1~P-17) 座長：春本 千保子 松野 正幹 永吉 啓吾
12:00					11:55~13:30 ポスター公開
13:00					
14:00			13:30~14:30 口述発表 内部障害① (O-55~O-59) 座長：池 康平 寺田 健司	13:30~14:30 口述発表 内部障害② (O-60~O-64) 座長：吉田 聖生 都留 貴志	13:30~14:30 ポスター発表 生活支援 (P-18~P-22) 座長：堀江 淳 卒業研究 (S-1~S-5) 座長：花崎 太一
15:00					14:30~15:30 ポスター公開
16:00					15:30~16:00 ポスター撤去
17:00					

Handwriting practice lines consisting of 28 horizontal dashed lines.

大会プログラム

教 育 講 演

特 別 講 演

ランチオンセミナー

卒業研究演題

査読者推薦演題

一般演題（口述発表）

一般演題（ポスター発表）

教育講演・特別講演

8:30～9:30 **教育講演(運動器系)**

メイン会場(1003)

座長：中川 法一(増原クリニック)

課題の明確化 —運動器理学療法のための画像評価

浅野 昭裕 中部学院大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科

9:50～10:50 **特別講演 1(内部障害系)**

メイン会場(1003)

座長：千葉 一雄(滋慶教育科学研究所)

臨床・教育・研究における人財育成の課題の明確化

千住 秀明 公益財団法人結核予防会複十字病院 呼吸ケアリハビリセンター

14:35～15:35 **特別講演 2(社会貢献)**

メイン会場(1003)

座長：森 憲一(一般社団法人 MSEP・大阪回生病院)

課題の明確化 —AI時代に求められる“決める力”と“真の研究力”

藤本 修平 株式会社 豊通オールライフ

15:50～16:50 **特別講演 3(神経系)**

メイン会場(1003)

座長：鈴木 俊明(関西医療大学)

臨床・教育・研究における人財育成の課題の明確化

吉尾 雅春 千里リハビリテーション病院

ランチョンセミナー

12:00～13:00 ランチョンセミナー①

第1会場(1001-2)

座長：尾谷 寛隆(国立病院機構大阪刀根山医療センター)

ここまできた脊髄性筋萎縮症(SMA)の診断と治療 ～早期発見・早期治療とリハビリテーションの重要性～

岡崎 伸 大阪市立総合医療センター 小児神経内科

協賛：バイオジェン・ジャパン株式会社

12:00～13:00 ランチョンセミナー②

第2会場(1008)

座長：羽田 晋也(独立行政法人 地域医療機能推進機構 滋賀病院)

脳卒中者の歩行における下肢装具の活用と今後の展望

増田 知子 千里リハビリテーション病院

協賛：川村義肢株式会社

12:00～13:00 ランチョンセミナー③

第3会場(1009)

座長：南部 正英(酒井医療株式会社)

運動器エコー＋タブレットPCの革新的活用 静と動の評価

中山 昇平 こたけ整形外科クリニック

協賛：酒井医療株式会社

卒業研究演題

13:30～14:30 卒業研究演題

第8会場(ホワイエ)

座長：花崎 太一(大阪回生病院)

S-1 ギャッジアップ後の背抜き施行による呼吸機能、最長発声持続時間への影響

立花 美香 大阪医療福祉専門学校 理学療法士学科

S-2 Knee-in の原因探求
～荷重時非荷重時のアーチ高率の変化について～

菅沼 美のり 藍野大学 医療保健学部 理学療法学科

S-3 扁平足における足部内在筋の形態
—超音波診断装置を用いて—

坂本 航大 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科

S-4 地域活動による介護予防の取り組み
—学校施設間連携の1モデル—

真田 恵利 大阪医療福祉専門学校 理学療法士学科

S-5 肩関節外旋の負荷方法と負荷量の変化による筋活動の違いについて

道浦 瑛生 大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法学専攻

査読者推薦演題

10:55～11:55 **口述発表** [査読者推薦演題①]

メイン会場 (1003)

座長：長倉 裕二 (大阪人間科学大学)

松田 淳子 (大阪行岡医療大学)

O-1 BAD 患者における発症 24 時間以内の離床が機能的予後および
進行性脳梗塞に及ぼす影響

掛谷 佳昭 関西電力病院 リハビリテーション部

O-2 脳卒中片麻痺患者における側腹筋の筋厚と体幹機能との関連

中嶋 士 白鳳会 大阪暁明館 大阪暁明館病院 リハビリテーション科

O-3 回復期脳卒中患者の自尊感情の変化と心身機能との関係性
～予備的検討～

澤井 康平 医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター

O-4 当院回復期リハビリテーション病棟の脊髄損傷患者における
在宅復帰に影響する要因

小笠原 峻 独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター

O-5 吸気筋トレーニングにより、横隔膜動態と運動耐容能が改善した
COPD 患者の 1 症例

水澤 裕貴 近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部

13:30～14:30 **口述発表** [査読者推薦演題②]

メイン会場 (1003)

座長：青木 修 (四條畷学園大学)

武田 要 (関西福祉科学大学)

O-6 膝関節運動に伴う膝蓋下脂肪体の移動量の定量化について

木下 敬詩 近畿大学病院 リハビリテーション部

O-7 後踵骨滑液包の水腫は足関節底屈時の Kager's fat pad の動態に影響するか？

片山 尚哉 社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 リハビリテーション科

O-8 医療従事者の腰痛発生に関わる身体機能の検討 (第 2 報)

北川 崇 社会医療法人有隣会 東大阪病院 リハビリテーション部

O-9 意思決定における患者参加の齟齬と理学療法士の社会的要因との関係性

大門 恭平 医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター

O-10 ADL 維持向上等体制加算におけるリハビリ開始基準の検討

松岡 森 公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 リハビリテーション科

一般演題（口述発表）

10:55～11:55 **口述発表** [基礎等]

第1会場(1001-2)

座長：松木 明好(四條畷学園大学)

木内 隆裕(森ノ宮医療大学)

O-11 大阪府の各市町村における理学療法士の就労の現状
～平成27年病院機関従事者の傾向～

穴田 周吾 追手門学院大学大学院 経営・経済研究科

O-12 吹田市理学療法士会が市民に対し行ったすいすい百歳体操教室の効果
(第1報：心身の変化)

奥野 大輔 株式会社 フルーション 地域支援事業部

O-13 超高齢サルコペニアを含む二症例に対する集団起立運動の取り組み

今井 彩葉 社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院

O-14 ばね靱帯機能特性の検証
一足部アライメントと性別による違い一

田中 謙次 医療法人 健生会 たつえクリニック

O-15 臥位用自転車エルゴメーター駆動時の膝伸展角度の違いが
下肢筋活動に及ぼす影響

堀 草太 社会医療法人愛仁会 高槻病院

O-16 腰部多裂筋の筋機能の違いは、下肢リーチ動作中の骨盤の運動に
影響を及ぼすのか？

横森 正喜 森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻修士課程

10:55～11:55 **口述発表** [神経①]

第2会場(1008)

座長：森 公彦(関西医科大学付属病院)

鈴木 規子(彩都リハビリテーション病院)

O-17 徒手療法を中心に治療を行い麻痺が改善した1症例

福田 志保 介護老人保健施設 パークサイドなごみ リハビリテーション科

O-18 左視床出血による一症例
～右立脚初期～中期にかけての安定性に着目して～

西川 智将 社会医療法人弘道会 守口生野記念病院

O-19 予後予測を用い、早期から長下肢装具を使用し歩行獲得を目指した症例

山口 和朗 社会医療法人寿会 富永病院

O-20 屋内独歩自立を目指した右被殻出血左片麻痺の症例報告
～臨床推論に基づいて～

中山 みのり 社会医療法人大道会 森之宮病院

O-21 再発性脳梗塞患者に対して装具再作製をおこない歩行獲得に至った一症例

西川 加与 社会医療法人 愛仁会リハビリテーション病院

O-22 ウェルウォークにより歩容改善、歩行安定性獲得に至った慢性期脳卒中患者の一症例

川畑 秀治 社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院

10:55～11:55 **口述発表** [神経②]

第3会場(1008)

座長：藤田 暢一(森之宮病院)

宮下 創(星ヶ丘医療センター)

O-23 くも膜下出血患者における離床時期が機能的予後および脳血管攣縮に及ぼす影響

山本 洋司 関西電力病院 リハビリテーション部

O-24 左被殻出血後、既往歴の右視床出血が大きな意味をもった症例

田中 敦也 医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院

O-25 早期離床プロトコルが安全かつ効果的であった穿通枝脳梗塞を伴うくも膜下出血の一例

中道 愛佳 関西電力病院

O-26 頸髄損傷不全麻痺患者の屋外歩行獲得に向けて、体幹機能訓練が効果的であった一症例

辻中 椋 医療法人康生会 泉佐野優人会病院

O-27 Push up による屋外階段昇降を獲得し外出自立に至った脊髄梗塞患者の一症例

友景 祐貴 社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院

O-28 KAFO を含む高負荷、高頻度の運動療法により歩行自立に至ったC5頸髄不全損傷の一例

宇多 恵一郎 関西電力病院 リハビリテーション部

10:55～11:55 **口述発表** [神経③・運動器①等]

第6会場(特別会議場)

座長：池澤 秀起(喜馬病院)

藤井 隆文(葛城病院)

O-29 ギラン・バレー症候群の回復期における多彩な症状と独歩の獲得の関連性を検討した症例

岡原 茜 社会医療法人大道会 森之宮病院 リハビリテーション部

O-30 CIDP 患者に対し歩容改善を図り、短期間で歩行能力の向上に至った一症例

中舩 糧千 社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院

O-31 聴神経腫瘍を呈し、小脳性の運動失調を認めた一症例

松本 絵梨加 社会医療法人若弘会 わかくさ亀間リハビリテーション病院

O-32 視野障害・眼球運動障害と軽度注意障害により歩行不安定性を呈した一症例

浦上 慎司 JCHO 星ヶ丘医療センター

O-33 医療従事者の腰痛発生に関わる身体機能の検討(第1報)

井上 花奈 社会医療法人有隣会 東大阪病院 リハビリテーション部

10:55～11:55 **口述発表** [運動器②]

第7会場(1202)

座長：岩村 真樹(藍野大学)

磯田 真理(西川クリニック)

O-34 右大腿骨頸部骨折術後の一症例
～右立脚期に着目して～

蓮池 結 社会医療法人 弘道会 守口生野記念病院

O-35 独歩にて左立脚期に疼痛が生じ右立脚初期に安定性低下した
左大腿骨転子部骨折の一症例

竹田 美咲 医療法人寿山会 法人リハビリテーション部

O-36 2度の股関節鏡手術で鼠径部痛が軽減しなかった症例に対する
病態を考慮した理学療法

樋上 友菜 社会医療法人 協和会 加納総合病院 リハビリテーション科

O-37 大腿直筋に対する超音波エコーガイド下筋膜リリース

工藤 慎太郎 森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科

O-38 運動リズムと股関節の肢位の違いが大腿外側部における
組織間の滑走性へ及ぼす影響

河西 謙吾 森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科

O-39 脚長差による跛行を呈した末期変形性股関節症患者に対し、
補高が有用であった一症例

畑中 将希 関西電力病院 リハビリテーション部

座長：高尾 耕平(わだ整形外科クリニック)
加藤 良一(大阪市立大学医学部附属病院)

- O-40** 大腿骨近位部骨折術後に存在する膝痛が在院日数に及ぼす影響
松尾 雄太 社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院 リハビリテーション科
- O-41** 軽度認知機能障害を有した変形性膝関節症患者に対する患者教育の試み
山田 良 医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院
- O-42** 右膝 OA に対し TKA 施行し歩行時の右膝リリース獲得に難渋した一症例
向埜 真歩 医療法人若葉会 堺若葉会病院
- O-43** 膝蓋骨亜脱臼術後膝蓋骨アライメントに着目し関節可動域が改善した一症例
土井 雄貴 医療法人いずみ会 阪堺病院
- O-44** 下行膝動脈血流速度測定による滑膜炎評価
福本 祐介 社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院

座長：三浦 なみ香(増原クリニック)
田中 貴広(阪奈中央リハビリテーション専門学校)

- O-45** 三果骨折後の歩行時痛に対し、超音波画像診断装置を用いた介入が有用であった一症例
藤原 将司 医療法人清仁会 水無瀬病院
- O-46** 杖歩行において左下腿の疼痛増悪により歩行継続困難となった一症例
安積 裕二 医療法人寿山会 法人リハビリテーション部
- O-47** 地域在住健常中高齢者を対象にした足関節パワーの調査
宮下 敏紀 森ノ宮医療大学 大学院保健医療学研究科 医療科学専攻
- O-48** 人工靱帯を用いた足関節靱帯再建術後スポーツ復帰までに生じた足関節後面痛の解釈
花城 健太 医療法人はあとふる 運動器ケア しまだ病院
- O-49** 腰椎圧迫骨折患者に対し後進歩行練習の即時効果が見られた1症例
～加速度計を用いて～
小池 一成 医療法人 錦秀会 阪和第二泉北病院 リハビリテーション部

座長：能登 洋平(履正社医療スポーツ専門学校)
加島 知明(永山病院)

O-50 洗濯動作にて右上腕骨近位前外側面に疼痛を認めた
右上腕骨近位端骨折患者の一症例

山本 俊明 医療法人寿山会 喜馬病院

O-51 投球障害肘における疼痛の要因の検討
— 健常群と障害群との比較 —

野田 逸誓 医療法人 N クリニック

O-52 野球肘検診における学童期野球選手の肘関節内側部障害と
身体的特徴の関連性について

橋本 康平 医療法人 N クリニック

O-53 肩関節前方脱臼を受傷したボクシング選手の評価に
超音波検査装置を用いた一症例

田原 洸 医療法人 N クリニック

O-54 頭を使いながら運動することで転倒予防につながるか

山本 准央 社会医療法人 弘道会 守口生野記念病院

座長：池 康平(大阪府済生会中津病院)
寺田 健司(みどりヶ丘病院)

O-55 当クリニックにおけるサルコペニアの有病割合について

千崎 大樹 医療法人敬任会 藤井寺敬任会クリニック

O-56 食道癌患者における術前栄養状態が術後の身体特性や
運動機能に与える影響について

杉谷 竜司 近畿大学病院 リハビリテーション部

O-57 健常者における吸気筋トレーニングの適正負荷圧の検討

白石 匡 近畿大学病院 リハビリテーション部

O-58 永続的な外来呼吸リハビリテーションの在り方に関する一考察

小谷 将太 一般財団法人 大阪府結核予防会大阪病院 リハビリテーション科

O-59 三軸加速度計にて身体活動量を評価し呼吸リハビリテーションを実施した
COPD 患者の一例

大庭 潤平 一般財団法人大阪府結核予防会 大阪病院 リハビリテーション科

座長：吉田 聖生(南大阪病院)
都留 貴志(市立吹田市民病院)

- O-60** 右肺部分切除術中における心筋梗塞発症患者への CPX 施行例
—活動量・不安抑うつに着目—
濱口 祐衣 社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院
- O-61** 急性心筋梗塞により心原性ショックをきたしたが ADL 向上が図れた症例
澁谷 このみ 医療法人医誠会 摂津医誠会病院
- O-62** 理学療法評価における体組成測定・筋輝度の利用可能性
～生体腎移植術後患者への試み～
山田 直矢 近畿大学病院 リハビリテーション部
- O-63** 脳性麻痺児の排痰方法の検討
～揺動刺激が排痰に有効であった1症例～
富 謙伸 公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院 リハビリテーション科
- O-64** 造血幹細胞移植患者の握力変化に関する要因
喜納 政史 大阪市立大学医学部附属病院 リハビリテーション部

座長：田中 暢一(ペルランド総合病院)
西田 大希(ひがしはら整形外科リウマチクリニック)

- O-65** 治療に伴い著明な ADL 低下を呈した造血幹細胞移植患者の
身体機能変化と1年間の経過
徳元 翔子 公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 リハビリテーション科
- O-66** 手術適応のある僧帽弁閉鎖不全症に対し、嫌気性代謝閾値未満の
運動強度を設定した一例
中原 優 社会医療法人三和会 りんくう永山病院
- O-67** 下肢幻肢痛に対するタブレット型端末装置を用いた鏡療法の試み
中橋 玲那 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター リハビリテーション科
- O-68** 在宅復帰を目指す高齢者の転倒原因を障害物跨ぎ動作より考察した一症例
中來田 徹 社会医療法人祐生会 みどりヶ丘病院

座長：安井 学(訪問看護ステーションおおみち)
前田 孝治(日野クリニック)

- O-69** 生活場面において食事意欲の向上を認めた一症例
スプーンでの食事動作獲得を目指して
井川 直樹 介護老人保健施設アロンティアクラブ
- O-70** E-SAS を用い生活活動が改善され外来化学療法実施を獲得した
濾胞性リンパ腫の一症例
山上 拓 大阪鉄道病院 リハビリテーション科
- O-71** 救命救急センター入室患者の離床達成に影響する因子の検討
木本 祐太 近畿大学病院 リハビリテーション部
- O-72** 救命救急センター入室患者に対する早期離床と退室時アウトカムの
関係性について
坂井 寛充 近畿大学医学部附属病院

一般演題（ポスター発表）

10:55～11:55 **ポスター発表** [神経①・物理療法]

第8会場（ホワイエ）

座長：春本 千保子（大阪回生病院）

- P-1** 右被殻出血により歩行障害を呈した回復期一症例に対する歩行再建の試み
久保 洋平 JCHO 星ヶ丘医療センター
- P-2** 半側空間無視を有する患者に運動療法と環境調整を行い、
病棟杖歩行自立に至った一症例
坂本 百合子 社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院
- P-3** 身体的垂直認知と抗重力筋に対する介入により Pusher 現象の改善を認めた一症例
人見 健一郎 医療法人穂翔会 村田病院 リハビリテーション部
- P-4** ルーティン介入によって ADL が向上した一症例
～発動性の低下に着目して～
中田 明里 社会医療法人 大道会 森之宮病院
- P-5** 感覚再教育によって起立動作の改善を認めた抗 NMDA 受容体抗体関連脳炎の1症例
宮本 大輝 川口脳神経外科リハビリクリニック リハビリテーション科
- P-6** Stiff Knee Pattern を呈した脳卒中片麻痺患者に対する歩行中の電気刺激の効果
岩室 賢太郎 医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院

10:55～11:55 **ポスター発表** [神経②・内部障害]

第8会場（ホワイエ）

座長：松野 正幹（医誠会病院）

- P-7** 過換気様症状により離床時間の延長に難渋した重度頸髄損傷者に対する
理学療法の経験
千葉 一貴 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部
- P-8** Sjögren 症候群の感覚失調性ニューロパチーにより立ち上がりの
安全性が低下した一症例
岡 春奈 医療法人功德会 大阪晴愛病院
- P-9** HAL[®]医療用下肢タイプと BWSOT を行ったポリオ二次感染の一症例
浦 慎太郎 公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院
- P-10** 低身体機能を呈する慢性Ⅱ型呼吸不全患者に対する HOT 導入・ADL 介入の検討
甲斐 太陽 公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 リハビリテーション科
- P-11** 糖尿病を既往に持つ心筋梗塞患者に対する運動療法の経験
～運動耐容能低下の要因の検討～
久津輪 正流 公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院

- P-12** 歩行時に疼痛が残存した踵骨骨折症例の介入経験
— 知覚と疼痛の関係性に着目して —
青嶋 秀都 摂南総合病院
- P-13** セット数の違うスタティックストレッチが関節可動域にもたらす変化
山本 英作 医療法人 天野整形外科 リハビリテーション科
- P-14** 大腿骨転子部骨折受傷後に大腿外側部痛を生じ、
外側大腿皮神経へアプローチした一症例
福田 大輔 社会医療法人有隣会 東大阪病院 リハビリテーション部
- P-15** 超音波エコーで大腿骨前脂肪体の動態評価が有効であった
左人工膝関節置換術後の一症例
廣瀬 智彦 医療法人全心会 寝屋川ひかり病院
- P-16** 右大菱形筋の機能不全が原因で右肩外転制限を呈した一症例
監崎 誠一 医療法人薫風会 西川クリニック
- P-17** 連携と訪問リハビリテーション指導で訪問リハビリテーションが
円滑に修了した1症例
奥野 浩和 医療法人樫本会 樫本病院

- P-18** 残存機能に着目した訪問リハビリテーション
～サービス卒業に向けて～
木佐 光輝 西大阪訪問看護ステーション サテライト優羽
- P-19** めまいを呈する利用者に対する訪問リハビリテーションの一考察
穴井 龍一 医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院
- P-20** 訪問リハビリテーション終了者の社会参加継続に影響を与える要因
～予備的検討～
奥間 健太郎 医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター
- P-21** 泉南市の介護予防体操 WAO 体操2を用いた住民主体の体操教室における
効果検証
宮前 直希 医療法人功德会 大阪晴愛病院
- P-22** 泉南市における短期集中予防サービスでの理学療法士の関わりについて
森岡 研介 医療法人功德会 大阪晴愛病院

第31回大阪府理学療法学会

抄 録 集

教 育 講 演

特 別 講 演

ランチョンセミナー

卒業研究演題 S-1～S-5

査読者推薦演題 O-1～O-10

一般演題（口述発表） O-11～O-72

一般演題（ポスター発表） P-1～O-22

課題の明確化 —運動器理学療法のための画像評価

浅野 昭裕

中部学院大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科

整形外科を受診すると、すぐに「はい、レントゲン」と言われるほど、画像情報は重要で一般的である。レントゲン(単純X線像)だけでなく、CT、MRI、最近では超音波画像もよく用いられる。医師がこれらの画像を診断や経過の把握等に用いるのに対し、我々理学療法士は独自の視点で読影し、適切な理学療法のために利用することができる。今回は主に単純X線像について説明する。

整形外科で撮影される単純X線像はほとんどが骨を投影するものであり、軟部組織は明確には描出されない。しかし理学療法士が対峙する運動器の主な問題は疼痛と可動域制限であり、多くは軟部組織の癒着や癒着に由来する。投影されない組織が疼痛や可動域制限の原因ならば、それらを「読む」目が必要となる。骨折の単純X線像では、骨折形から外力の加わり方と方向とを判断し、受傷時に併発した軟部組織の損傷を推測できる。その推測には正しい解剖学の知識が必要であり、投影された骨画像の上に筋の付着をイメージできることが求められる。さらにその画像から、再び立体をイメージする能力も必要である。

例えば上腕骨大結節骨折の場合、骨折形により圧縮力が加わったのか、離開力が加わったのかを判断できる。前者の骨折線は骨幹長軸と平行に近い直線で、剪断骨折となる。後者では腱板の付着部が小さく剥がれて浮き上がる裂離骨折となる。ともに転位がない場合、治療に難渋するのは前者である。なぜなら、前者は受傷時に大結節が肩峰に衝突するため、両骨間に介在する腱板や滑液包が損傷している可能性があるのに対し、後者ではそのような軟部組織の損傷は生じないからである。従って剪断骨折に対する理学療法では癒着や癒着の存在と仮骨の存在とをより考慮し、アプローチの方法と時期とを考える必要がある。

大腿骨転子部骨折の場合、十分な内固定を得れば手術翌日から全荷重となる。しかし、多骨片骨折であれば内固定が得られない骨片も存在し、その部位は保存療法と変わらない。小転子骨折がある場合、その骨片に付着する腸腰筋の働きに注意する必要がある。同筋はベッド上での移動や坐位で下肢を持ち上げる際にも働くが、荷重時にも緊張を高める。手術翌日からの全荷重では腸腰筋が小転子骨片を引っ張って強い疼痛を生じさせているかもしれない。たいていの場合、そのような疼痛が生じるのは画像上で小転子の転位が小さい症例である。大きく転位した症例ではすでに骨片間の連続性がなく疼痛は生じないが、動的安定性は喪失している。早期荷重にはこのようなリスクが生じていることを、理学療法士は画像から読み取ることができる。

理学療法士としての読影力は、このようにリスクの回避や機能予後の予測に役立つだけでなく、リハチームの中で理学療法士の専門性を示し、また医師との共通言語を得ることにより高いレベルでのディスカッションを可能とする、ぜひ身に付けたい能力である。



浅野 昭裕

本研修の狙い

1. 四肢の外傷に対し適正な理学療法を行うために必要な、運動器の単純 X 線像の読影について学ぶ。
2. 運動器における超音波画像の現状を知り、有用性と今後の可能性を理解する。
3. 単純 X 線像や超音波画像の読影力が医師とのコミュニケーションのために必要であり、レベルの高いリハビリテーションチームを作るために身に付けるべき能力であることを理解する。

身につける能力

1. 四肢の単純 X 線像の撮影肢位がわかる。
2. 四肢の単純 X 線像から骨の状態がわかる。
3. 四肢の単純 X 線像から筋や靱帯を想像できる。
4. 骨折の形から外力の加わり方が分かり、軟部組織の損傷を推測できる。
5. 単純 X 線像から手術の狙いがわかり、手術の状態が想像できる。
6. 単純 X 線像からの情報をもとにして、理学療法を立案できる。
7. 運動器における超音波画像の現状を知り、理学療法における有用性と可能性とを理解できる。

略 歴

国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院理学療法学科 卒業
S61～H28.3. 碧南市民病院 リハビリテーション室長
H28.4.～ 中部学院大学看護リハビリテーション学部 理学療法学科 教授
運動器専門理学療法士 整形外科リハビリテーション学会 代表理事
修士（社会福祉学）

著 書

運動療法に役立つ単純 X 線像の読み方、整形外科運動療法ナビゲーション
（責任編集）など

S-1

ギャッジアップ後の背抜き施行による呼吸機能、最長発声持続時間への影響

○立花 美香、沖 紗莉奈、島崎 莉奈、芹生 直人、廣西 景亮、南 碧衣、高田 寛彬

大阪医療福祉専門学校 理学療法士学科

【はじめに】臨床現場において普段から体位変換やギャッジアップ後に身体とベッド間の圧・剪断力の軽減の為、背抜きという手技がよく用いられている。ギャッジアップ座位での食事動作場面においても背抜きを行うことがあるが、背抜きが呼吸機能や咳嗽・発生持続時間に及ぼす影響についての報告は少ない。そこでギャッジアップ後の背抜きが呼吸機能や発生持続時間に与える効果の有無について研究を行った。

【対象方法】対象は喫煙歴がなく呼吸、循環器疾患を有しない健康成人12例(年齢 25 ± 6 歳、身長 163.7 ± 8.8 cm、体重 55.5 ± 6.0 kg、BMI 20.7 ± 0.8)とした。ベッドはNL3150(パラマウントベッド製)を使用した。ギャッジアップは頸部中間位および膝上げ 20° 、背上げ 60° と規定し、直後にスパイロメータ(日本光電製、MICROSPIRO HI-201)にて呼吸機能検査を実施した。同条件でギャッジアップ後に背抜きを施行し、同様に呼吸機能検査を実施した。検査項目は、肺活量(以下VC)、%肺活量(以下%VC)、1回換気量(PV)、予備呼気量(ERV)、予備吸気量(IRV)、努力性肺活量(FVC)、1秒量(FEV)、1秒率(FEV1.0%)ピークフロー(以下PEF)、最長発声持続時間(以下MPT)とした。統計処理は有意水準を5%未満とし対応のあるt検定を用いた。

【倫理的配慮】被検者には本研究の主旨を説明し、書面にて同意を得た。

【結果】VC(ギャッジアップ直後 3.7 ± 0.90 L、背抜き後 3.9 ± 0.93 L)、%VC(ギャッジアップ直後 $101.3 \pm 12.55\%$ 、背抜き後

$107.2 \pm 12.05\%$)、MPT(ギャッジアップ直後 24.4 ± 3.78 秒、背抜き後 27.8 ± 5.18 秒)において背抜き前後で有意な改善を認めた。

【考察】通常ギャッジアップと背抜き施行したギャッジアップを比べた結果、背抜きを施行した方がVCおよびMPTが改善することが示唆された。ギャッジアップ後の背抜きにより、ギャッジアップ時に生じた圧・剪断力が取り除かれ、吸気時の肋骨の後方回旋運動が促進され、胸郭の拡張が助長されたこと、短縮位であった吸気補助筋が背抜きによって伸長されたことが、VCおよびMPTの改善に繋がったと考える。先行研究より咳嗽時最大呼気流速(以下CPF)とVC、CPFとMPTについては、関連があると報告されており、VCは咳嗽の第2相と第4相、MPTは咳嗽の第3相にそれぞれ関与している。また、CPFの上昇は排痰能力の上昇に関与するため背抜きは誤嚥性肺炎の予防にも寄与するのではないかと考える。

【理学療法研究としての意義】今回の研究から背抜き施行によって呼吸機能の向上を認めた。背抜きは簡易な手技であるが呼吸機能の向上が図れるため、医療スタッフや家族指導、誤嚥性肺炎の予防等、幅広く活用できると考えられる。

S-2

Knee-inの原因探求

～荷重時非荷重時のアーチ高率の変化について～

○菅沼 美のり、熊田 仁

藍野大学 医療保健学部 理学療法学科

【はじめに】前十字靭帯損傷は非接触型受傷が多く、受傷肢位はKnee-in & Toe-outが多いと報告されている。しかしKnee-inの発生原因は確定されておらず、大腿四頭筋・股関節外転・外旋筋の筋力低下、偏平足等様々な要因が考えられている。そこで本研究では、Knee-in発生原因の探求を目的に、荷重・非荷重時のアーチ高の変化に着目し、アーチ高率とKnee-inの関係性を検証した。また同時にアーチ高の減少に対し、アーチサポート挿入の効果について筋電図を用いて比較した。

【対象および方法】対象は同意を得た健康成人とし、Knee-inの有無によりKnee-in群(K群)7名、Neutral群(N群)7名に振り分けた。対象者の内側縦アーチ高率の変化量を座位と前方踏み出し肢位にて計測した。ステップ幅はステップ側と支持側の拇趾先端の距離が身長70%になるように設定し、ステップ側へ体重の50%を乗せた肢位に設定した。その際膝関節は 90° 屈曲位とした。表面筋電図にて前脛骨筋(TA)、長腓骨筋(PL)、大腿二頭筋長頭(BF)、半腱様筋(Sd)、中殿筋(GM)、長内転筋(AdL)、外側広筋(VL)、内側広筋(VM)の前方踏み出し肢位の%MVCを算出した。K群には、アーチサポート挿入前後の筋電図を測定し比較した。統計は対応のないt検定および一元配置分散分析を用いた。統計処理にはSPSS20.0J for windows(IBM社製)を使用した。

【結果】

①アーチ高率の変化量はK群 3.3 ± 1.3 cm、N群 1.8 ± 0.6 cmとなり、両群間に有意差を認めた($p < 0.05$)。

②%MVCを両群で比較した結果、TA(K群 14.3 ± 5.2 N群 5.3 ± 2.6)、PL(K群 46.8 ± 22.5 N群 36.5 ± 8.3)、VM(K群 61.5 ± 19.7 N群 43.7 ± 17.6)、AdL(K群 23.2 ± 8.3 N群 9.6 ± 5.8)、となりK群で有意に高い結果となった($p < 0.05$)。

③K群へのアーチサポート挿入後の比較では、PL・VM・AdLはN群との差は消失したが、TAにおいて有意差($p < 0.05$)が残存する結果となった。Knee-in時のTAの過剰な筋放電に対し、アーチサポートによる抑制効果は認められなかった。

【考察】先行研究ではKnee-inと扁平足間関係性が示されているが、今回の研究ではアーチ高率の変化量が大きい者はKnee-inになりやすい結果となった。K群では座位時に比べ荷重時にアーチ高が大きく減少した。その結果足部回内が起り上行性の運動連鎖によるPL・TAの筋活動が高まり、下腿が内傾することでKnee-inを引き起こしたと考察する。この現象に対しアーチサポートの挿入を試みたが、Knee-inの改善は認めなかった。またPLの活動量はN群に近づいたものの、TAに関しては有意な改善を認めなかった。アーチサポートを挿入した場合、後足部は回外誘導され骨性・靱帯性による支持性増加が起り、PLの筋活動が低下したと考えられる。しかし、背屈・内反作用を持つTAに関しては、舟状骨を高くし後足部の回外誘導だけでは、背側から走行し第1中足骨底(前足部)に付着するTAにはその効果が及ばなかったものとする。今後、Knee-in予防にアーチサポートを実施する場合、前足部までの回外誘導の必要性が示唆された。

Blank lined paper with horizontal dashed lines for writing.

協賛企業一覧

(五十音順)

- WHILL 株式会社
- オージー技研株式会社
- 川村義肢株式会社
- 酒井医療株式会社
- 株式会社三笑堂
- 株式会社神陵文庫
- バイオジェン・ジャパン株式会社
- 株式会社プロアシスト
- ミナト医科学株式会社

第31回 大阪府理学療法学術大会

運営組織・委員一覧

大 会 長 千葉 一雄（滋慶教育科学研究所）
副 大 会 長 中川 法一（増原クリニック）
準備委員長 森 憲一（MSEP・大阪回生病院）

事 務 局	局 長：加藤 良一（大阪市立大学医学部附属病院）				
財 務 部	部 長：大井 直樹（シニアカレッジポプラ箕面船場） 白井 宏樹 高濱 祐希子				
総 務 部	部 長：服部 暁穂（大阪府済生会中津病院） 大島 淳一郎 西岡 俊之介 松井 寛樹				
広報渉外局	局 長：増井 健二（堺若葉会病院）				
広報記録部	部 長：辻畑 智広（阪南病院）				
学会誌部	部 長：桂 大輔（堺若葉会病院） 水谷 美和 富林 栄作				
企画学術局	局 長：大槻 哲也（大阪医療福祉専門学校）				
企 画 部	部 長：永吉 啓吾（大阪医療福祉専門学校）				
学 術 部	部 長：塩津 貴之（辻外科リハビリテーション病院） 元石 光裕				
運 営 局	局 長：熊田 仁（藍野大学）				
企画展示部	部 長：本田 憲胤（北野病院） 上坂 建太 島季 美果 前田 和成				
受 付 部	部 長：大槻 哲也（兼任） 磯田 真理 平田 明日香 中村 太志 監崎 誠一 辻野 麻里 福岡 達則 松村 英樹 四至本 梨紗 梅谷 美紗子 林 孝明 新谷 祐紀 武政 奈桜 木村 彩香 柳原 愛弓 布谷 麻衣子 小山 晴菜 藤原 由佳子 塩津 貴之（兼任） 山口 晃平 岩崎 健太 永吉 啓吾（兼任）				
接 待 係	春本 千保子 酒井 宏介 金岡 祐美香 井口 奈保美				
会 場 部	部 長：滝上 祐美子（城山病院） 三好 卓宏 中村 泰章 平 直樹 川口 侑希 大住 優香里 阪口 優 藤本 浩司 今野 政祐 大村 達史 竹内 里帆 水川 拓哉 谷村 隼 井門 文哉 西田 大希 藤井 隆文 斉藤 繁樹 久保 侑平 吉田 恵美 竹村 享子 久保 清資 小池 一成 植村 貴史 吉田 修樹 高浦 佑介 山内 大輝 秋山 直人 塚原 薫 前田 千明 竹田 大介 三戸部 浩之 長宗 博 平尾 秀和 児玉 優斗 福山 友見 辻本 大樹 廣瀬 藍里 松原 祐樹 呉竹 麻美子 加茂井 沙紀 山下 賞伊 有村 亮 松田 和洋 廣畑 博之 池上 和寿 井出 寛 松本 正樹 渋谷 静香 永安 由佳 鈴木 規子 北脇 のぞみ 齊藤 友介 佐々木 朋彦 向井 寛之 宇野 穂香 岡田 真次 村上 信行 三木 康佑 太田 誠人 山本 真暢 竹岡 由似 嶋貫 翔太				
備品スライド係	今中 辰茂 橋本 圭史 緒方 阿禍梨 天野 文貴 野田 知秀				
会場進行係	西野 冬馬 田中 貴広				

大阪府理学療法学会誌 第31号

発行日：令和元年6月発行

編集・発行：一般社団法人 大阪府理学療法士会生涯学習センター

〒540-0028 大阪市中央区常盤町1-4-12

常磐セントラルビル301号

TEL：06-6942-7233 FAX：06-6942-7122

E-mail：gakkai@pt-osk.or.jp

出版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

